

令和7年度 学校評価総括表

奈良育英中学校 高等学校

教育目標		具体的目標 (評価小項目)		学校自己評価(4段階評価)	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等
				A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:達成が困難である			
教育目標	1. 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや楽しみを共有できる生徒を育成						
	2. 自主・自立的な姿勢や態度を研ぎ、高い志を持って個別最適な学びを自負し、全てのことに全力を尽くす生徒を育成						
	3. 文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成						
4. ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するとともに、地域と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒を育成							
5. 英語教育に力を注ぎ、英語検定で合格を勝ち取り、またその結果により、生徒に「自信」を呼び起こす教育を実施							
教務部	ICTを積極的に活用した授業改革と教務関連業務の効率化とミスの削減	教育課程の検証(継続)	・時代のニーズ、建学の精神・教育目標に沿った教育課程の編成(管理職も文交)	B		国際理解Gコースから高大連携Gコースへの改称を行った。 一部のコースや科目における教育課程に課題を抱えたままになってしまった。	高等学校においては、令和4年度の次期学習指導要領改訂に向けて管理職含めて検討する。
		授業改善(ICTの積極的な利用を含む)	・ICTを活用することによる効果の検証 ・一人ひとりに応じた指導の強化 ・授業評価アンケートの分析 ・校内内外での研修の推奨および教科内研修の実施	B	B	生徒・教員双方へのICT活用調査を実施し、活用頻度や学習効果を多角的に可視化を行った。あわせて授業評価アンケートの設問を一部刷新したことで、より現実的なデータ収集が可能となった。これらの結果をもとに、教科会や学力向上委員会において徹底した分析・報告会を行い、組織全体で授業改善の方向性を共有できた。今後は、分析結果を具体的な授業設計に落とし込み、生徒の学力向上に直結させる取り組みを強化する。	各種アンケート結果を詳細に分析し、エビデンスに基づいた授業改善を全校体制で推進する。ICTの活用については、授業での「個別最適な学び」の充実に限らず、保護者対面の説明会等でも積極的に活用し、学校教育への理解と共有を深める。また、教材の教科内共有をシステム化することで、教材研究の質を高めつつ教員の業務負担を軽減し、生み出された時間を生徒への直接の指導へと還元することを目標とする。さらに、紙媒体による資料配布や教材の作り方を抜本的に見直し、情報の迅速な共有と資源の有効活用を図る。授業見学週間等の公開行事を戦略的に配置し、教員相互の研鑽を通じて、常に進化し続ける授業づくりに努める。
		教務関連業務(成績処理等)の徹底・協力体制の強化	・教務関連業務の研修会の実施 ・教務業務の効率化	C	C	新任の教職員を対象とした実務研修会を計3回実施し、本校の成績処理システムや教務規定の早期習熟を図った。これにより、本年度初めからの円滑な業務遂行を、組織内での自覚的な形成に一定の成果が得られた。教務業務が複雑化とともに、教職員の心理的・物理的負担の軽減が急務となっている。今後は業務工程のさらなる効率化を図るとともに、ミスを未然に防ぐ相互支援体制をより強固にする必要がある。	成績処理をはじめとする教務事務の工程を見直しICTの活用等によるデジタル化・簡素化を推進する。これにより、単なる業務の効率化に留まらず、授業や学習の質の向上に貢献できる「準備」や「授業準備」に注力できる環境を構築する。また、教職員がノウハウを共有する実務研修を定期的に行い、組織全体のダブルチェック体制と協力体制を強化することで、ミスを未然に防ぐ精度の高い教務運営を実現する。
生徒指導部	生徒が学校を愛することができ、他者からも愛される学校を実現する生徒指導体制の構築	生徒が安全で安心な学校生活を送ることができる環境作り	いじめの防止と発覚時の適切かつ迅速な対応 ・防災・防犯・交通安全等の「命の教育」の充実 ・校内美化の意識の向上と通常清掃の徹底	B	B	いじめアンケートを1・2学期とも早期に実施していじめの早期の把握に努めるとともに、担任や学年を中心に日々の生徒の様子を把握し、いじめ防止、早期発見、早期対応に努めた。避難訓練、防災・防犯ホームルーム等を実施して生徒の防災・防犯意識の向上を図った。また、令和7年10月1日より施行された奈良県道標記の禁止事項や今年度の月間入学生徒の服装等に関する注意喚起も行った。教室・特別構内区域ともに清掃が徹底できていない箇所も見受けられ、通常清掃の徹底ができていないのが現状で美化意識の向上には至らなかった。	いじめアンケートを実施して生徒の現状の把握に努めるとともに、担任や学年を中心に組織的にいじめ防止、早期発見、早期対応に努める。今年度同様、自然災害時に命を守る行動がとれる生徒を育てることを目標に避難訓練、防災ホームルーム等を実施・実施する。生徒が犯罪を犯さない、巻き込まれないよう、注意喚起や正しい防犯に関する知識(スマートフォン等の不正利用や交通ルール違反等)の提供や注意喚起、指導に努める。学校全体で放課後の清掃を徹底し、環境美化を意識する指導を行って美化意識の向上を目指す。
		他者から信頼される生徒の育成	・基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を図る指導 ・他人の気持ちや思いやり、隣人助け合いの養成	C	C	依然として学期に遅刻を5回以上する生徒が多く見られ、授業においても予鈴で着席できておらず、全体的に基本的な生活習慣が身に付いていない。また、携帯電話の違反や登下校時の着席も多く、モラル・規範意識が高くないのが現状である。	教員を含めた学校全体の規律や時間に対する意識改革を進める。また、担任や学年を中心に朝の会やホームルーム等での規則の遵守・マナーやモラルの徹底、遅刻や早退等の指導の徹底の徹底に努め、基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を目指す。
		不公平感を生まない生徒指導	・教員全員が同じ基準で指導ができる現行の校則・規定等の明確化 ・教員間の情報共有と連携 ・時代に合った校則・規定等の検討と改定	C	C	今年度、校則や規定を含めた学校生活のおしりを作成してホームページに掲載し、ルールの見易化を図ったが、教員や生徒への周知徹底が不十分であった。また校則・規定等の明確化や検討と改定が必要なのがあるのが現状である。教員全員で職員会議等で指導についての教員間の情報共有と連携に努めているものの、化粧やスカートの丈等教員全員が同じ基準で指導できていないものもあり、今後の課題である。	教員全員が同じ基準で指導ができる現行の校則・規定等の明確化を引き続き実施するとともに、学年の協力を得ながら教員全体の指導に対する意識改革を目指していく。迅速かつ適切な情報共有を徹底し「教員間の連携を目的とした指導」を行うように努める。引き続き、時代に合った校則・規定等の検討と改定を進めていく。
進路指導部	「希望する」進路の実現に向けた、進路指導体制の確立	生徒の「希望する」進路の実現に向けた、学校・保護者・生徒一体となる指導	・入試情報、分析、迅速な共有 ・模擬試験の分析、 ・授業内容や講習内容等の整理	B	B	多様化する入試方式に対して、各大学の入試情報の収集に努めた。大学説明会への参加や、国立大学に通学する卒業生を招いた行事を企画し、大分県関係は本校卒業生の進路実現に向けた進路ガイダンスを実施した。また、保護者や関係機関との連携を図った。また、学年中での情報の共有やコースでの現状分析を行ったが、全体的には模試分析も含めて課題を残した。	学校・保護者・生徒一体となる指導をすすめるにあたり、保護者の理解が不可欠である。今年度は昨年度に比べて保護者がガイダンスに出席した割合がアップして実施した。また、保護者や関係機関との連携を図った。2026年度に実施したいと考えている。また、教員の知識・情報量についてもレベルアップを図りたい。多様化する入試方式について、しっかりと理解を深め、総合型選抜や推薦型選抜での合格額を図りたい。一方で、学力をしっかりと高め、難関大学への合格も目指していきたい。
		広報(情報発信)の充実	・保護者進路ガイダンス(対面やオンライン)を通しての本校進路方針や本校および全国における入試動向の分析、共有 ・生徒への迅速な情報提供および各種説明会の充実 ・ホームページを利用した外部への情報発信の拡充	B	B	中学・高校ともに、各学年での進路ガイダンスや進路説明会などの機会を設けてきた。昨年度の課題であった「知る機会」を作るという点では、各行事を効果的に活用できた。一方で、全体としての情報発信や行事開催はできてきたが、コースや個々の状況に応じた情報の発信には課題を残した。教員向けに研修を実施できなかった進路指導に関する研修会や、学年や一部コースでの研修など、少しずつはあるが、発展させることはできてきた。また、行事等進路指導部の取り組みをホームページを通して外部へ発信することは概ね達成できた。	生徒の意識向上に努めることは当然であるが、教員全体の意識改革も必要である。今年度は新聞やネット記事、ベネッセイブスクールオンラインを活用した入試や進学に関する情報を進路指導部として発信し、教員全体の進路情報に対する距離をさらに近いものにしていく。また、教員同士での情報共有を強化し、コースや学年での個別最適な進路指導につなげていきたい。
		体験・経験活動の充実	・連携大学との行事や各体験行事における学びたい学習の場の拡充 ・各コースとの連携、行事の策定	B	B	中学・高校とも連携大学との行事を活発に実施することができた。なかでも、中学は新しく3年生での体験会を実施。高校進学前に自身の進路選択について考える機会をもつことが出来た。また、高校については、SDGs大学を中心とした「学びたい」学習の機会が充実した。また、新しく高校2年生で分野別体験会を開催し、自身の進路選択について考える機会を作ることが出来た。また、本校の卒業生を招いた行事や大学関係者の講演など、新たな取り組みを行うことも出来た。	一方で、全ての学年・コースにおいて、効果的に行事を開催できていない部分も多い。次年度に向けて、各学年やコース(中高とも)の状況に応じた行事やガイダンスを実施したい。また、今年度は、各学年・コースの状況を随時把握しながら進めていく。
教育推進部	「命の教育」と「受ける教育」を意識した計画や運営	保健安全の強化	・保健安全の充実、保健室との連携、情報共有 ・安心安全の体育行事の企画・運営 ・生徒の自主的な活動指導	B	B	・中学の保健室利用状況が増加した。 ・命の教育を意識した講演会を実施し、危機管理の意識の向上を図ることができた。 ・生徒主体の体育行事が実施できた。 ・部活動生への安全講習会等の検討が必要である。	・共有方法の明確化や教育相談室との連携等、来年に向けて対応方法を検討していく。 ・命の教育を意識した講演会等を実施し、危機管理の意識をさらに高める取り組みを検討していく。 ・体育行事については、生徒数の増加に伴い、進行の方法など、様々な形を検討していく。
		式典・刊行物の強化	・充実した式典の企画・運営 ・刊行物作成における校正方法の充実	B	B	・今年度は、過去最大人数の高校卒業式であった。人数が多くなつた時間がかかってしまった。 ・刊行物は、丁寧な企画・編集ができた。	・式典については、生徒数の増加に伴い、進行の方法や校外施設の利用など、様々な形を検討していく。 ・本校実施の模範校舎と学年・コース等々を整理し、スムーズな運営が出来るように計画していく。
		国際交流・文化の充実	・国際交流事業の精査と検討 ・文化活動の充実	A	A	・交流事業については、カメルカレッジ・キングスカレッジ・韓国清涼中学校・中国文来高校等と交流をする事ができた。 ・特別コースのみならず、様々なクラスの授業で交流を実施することができた。 ・各学年充実した文化行事が実施できた。 ・今年度は全校生徒と全教員対象に、2025年版・関西西方面へ参加する事ができた。 ・毎年国書祭りを紙面で配布し、図書館の利用促進を図った。	・交流事業の内容を再考している。 ・次年度はカメルカレッジ校が本校に来校予定である。充実した取り組みになるように検討していく。 ・オーストラリアやアメリカ合衆国での海外旅行、参加生徒数の増加を目指していく。 ・文化行事は中高一貫としたプログラムを検討していく。 ・図書館の運営については、図書館の利用を含め、学習活動との連携を回れるように検討していく。
入試広報部	奈良育英ブランドイメージの向上と安定した入学生の確保	奈良育英ブランドイメージの向上	・本校の特色ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信 ・本校関係者(特に在校生とその保護者)の満足度向上 ・各種入試広報行事の充実	B	B	入試広報イベントは概ね昨年通りの内容で実施したが、いずれのイベントも参加希望者が昨年度よりも多かった。本校に対する期待や関心の高まりが感じられた。また、本校関係者(特に在校生とその保護者)の満足度向上も図られた。また、本校関係者(特に在校生とその保護者)の満足度向上も図られた。また、本校関係者(特に在校生とその保護者)の満足度向上も図られた。	これまで実施してきた入試広報イベントの良さを残しながら、受験生とその保護者に対して新たなアプローチを模索していく。
		定員充足	・(高校入試)各コースにおける定員の充足	A	A	高大連携Gコースを含め、すべてのコースで定員充足の見込みである。	この結果を一過性のものとせず、継続して定員充足できるよう、受験生とその保護者のニーズを分析し広報活動を行う。
		広報活動の促進	・非対面広報活動の充実 ・生徒主体で学校の魅力を発信できる体制づくりの推進	B	B	・ホームページやスクールガイド以外の広報ツールの検討を行った。 ・保護者対象中学授業見学会では、本校生徒の生の声を聴いていただき、充実したイベントとなった。	非対面広報活動について具体的に検討を進め、早期に実行に移す。